

IPS アルファテクノロジーの生産計画の前倒しについて

株式会社 IPS アルファテクノロジー(取締役社長 米内史明/以下、IPS アルファ)は、このたび、IPS 液晶へのニーズの高まりに対応し、2006年度第2四半期(7-9月)に予定していた生産開始を約2カ月前倒しし、2006年5月から量産(生産能力160万枚/年、32型換算)を開始することとしました。

また、あわせて、拡大する薄型テレビ需要を踏まえ、当初、2008年度下期に予定していた生産能力の増強を約1年半前倒しし、2007年4月に32型換算で250万台/年の生産能力とする計画です。

現在、地上波デジタル放送の普及に加え、冬季トリノオリンピックやサッカーワールドカップドイツ大会などの世界的なイベントを控え、デジタル放送の画質の良さを引き出す IPS 液晶へのニーズは、一層高まってきました。

そのような状況下、当社は、2005年1月1日の発足以降、千葉県茂原市の株式会社 日立ディスプレイズ(取締役社長 森 和廣)の敷地内に、2006年度第2四半期の量産開始に向け、最新鋭のテレビ用 IPS 液晶パネル製造工場の建設を進めてきました。しかし、市場のニーズに対応するためには、計画の見直しが必要と判断し、現在建設中である工場の量産開始、および生産能力の増強を前倒しすることとしました。

今後、当社では、その技術力を活かし、性能および価格面でより競争力のある液晶パネルを提供していきます。

IPS 液晶について

IPS 液晶は、In-Plane-Switching(横電界)方式液晶の略称で、TFT 液晶表示方式の一つである「斜めから見ても美しい」高画質の横電界液晶です。

IPS 方式は、電圧がかかると液晶分子が基板と平行に回転するため、広視野角に加え、見る方向による色調変化や白から黒までの全階調での色調変化が少なく、上下左右 170 度の視野角のどこから見ても自然な画像が表示できる特徴があります。テレビ用途に改良した IPS-Pro 方式は、従来の IPS 方式に対し、透過率を約 50%、コントラスト比を 3 倍に向上させ、最高画質の液晶テレビセットを実現させる方式です。

IPS アルファ発足について

株式会社 日立製作所(執行役社長 庄山 悦彦/以下、日立)、株式会社 東芝(代表執行役社長 西田 厚聰/以下、東芝)、松下電器産業株式会社(代表取締役社長 中村 邦夫/以下、松下)および日立の 100% 子会社である株式会社 日立ディスプレイズの 4 社は、薄型テレビ向け液晶パネルの製造および販売を行う合弁会社「株式会社 IPS アルファテクノロジー」を、2005年1月1日に共同で設立しました。

IPS アルファでは、日立ディスプレイズが開発した IPS 方式の液晶パネルを生産します。日立、東芝、松下および IPS アルファは、セットメーカーとパネルメーカーとしての緊密な連携により、相乗効果を発揮し、性能面、かつ価格面でもより競争力の高い IPS 液晶パネルや同パネルを搭載した液晶テレビを提供していきます。

IPS アルファの概要について

- 1.会社名:株式会社 IPS アルファテクノロジー
- 2.代表者:取締役社長 米内史明(よない ふみあき)
- 3.発足日:2005年1月1日
- 4.資本金(資本準備金含む):690億円(2006年末予定)
- 5.出資比率:日立ディスプレイズ 345億円(50%)、東芝 150億円(22%)、
松下 150億円(22%)、日本政策投資銀行他 45億円(6%) (2006年末予定)
- 6.所在地:千葉県茂原市早野 3300(2006年2月以降は、茂原市早野 3732に変更予定)
- 7.事業内容:アモルファス TFT 液晶パネルの製造、設計、販売およびこれら事業に関連する
保守・サービス等
- 8.設備投資額:約 1,100 億円
- 9.生産品目:23 型以上のテレビ用アモルファス TFT 液晶パネル
- 10.生産開始時期:2006 年 5 月
- 11.生産能力:2006 年 5 月(生産開始時) 160 万台/年(32 型換算)[基板投入能力 2 万シート/月]
2007 年 4 月以降 250 万台/年(32 型換算)[基板投入能力 3 万シート/月]
[基板サイズ:1,500mm×1,850mm、26 型 12 枚取り、32 型 8 枚取り]

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
